

小 牧 連 携 便 り



あいさつ 2

病診連携室紹介 3

病診連携トピックス 4

おしらせ 6
病診連携質問票をご利用ください
紹介状が新しくなりました

KOMAKI DI LETTERS 9

「第1回小牧連携便り発刊を記念して」



小牧地域連携協議会
委員長 末永 裕之（小牧市民病院病院長）

雨にぬれたあじさいの美しさに心慰められる今日この頃、先生方にはご健勝でお過ごしのことと思います。このような清しい季節に「小牧連携便り」第1号が出され、大変喜ばしいことと思っています。

近日の厳しい医療事情は皆様方にもよくご承知のことと思いますが、このような試練を乗り越えるためには単なる各施設の努力だけでは不十分であり、医療関係者が一致団結して対処することが肝要です。

政府もかつての医療費抑制政策の愚を認め、医療費の増額、医師・看護師の増数などへと舵を切り替えつつありますが、厳しい経済状況からは総枠の大幅な拡大は望みえません。しかし、その中でも特に病診連携を中心とするチーム医療に対しては手厚く対処する方針を掲げています。

小牧市民病院も昨年より「地域連携室」を拡充し、皆様開業医の先生方との緊密な連携関係を目指す所存です。本年度の医師会総会において当院のこのような方針を説明させていただく機会をいただき、今回、小牧医師会から5名、当院から5名の委員からなる「小牧地域連携協議会」が設立されましたことは取りあえず順調な船出ができたものと感慨無量です。このように皆様方と手を携えることにより小牧市の地域医療レベルの健全な維持に中心的な役割を果たせれば大変委員長冥利に尽きるものと思っていますので、今後ともぜひご協力をお願いいたします。



小牧地域連携協議会
副委員長 船橋 重喜（小牧市医師会長）

小牧地域での医療の一層の充実をめざして、小牧地域連携協議会が発足しました。病診連携は地域医療を充実させる上で、最も重要なことでもあります。小牧市民病院は、主に急性期先進医療を担当され、第三次救命救急医療施設として、又、がん診療拠点病院として、単なる市民病院の枠を越え、尾張北部医療圏の中核病院として、重要な使命を果たされております。

一方、私達開業医は、地域に密着した一次医療を中心として日々診療を行い、他に予防注射・健診・学校医・産業医等の活動を通して、地域医療の重要な一翼を担っております。小牧市民病院は、小牧市民及び近隣の住民の救急医療を担う重要な存在であると同時に、私達開業医にとっても重要な後ろ盾であり、困った時に助けてもらえる病院として、日々の診療を行っていく上で大きな支えとなっております。しかし私達が、一方的に市民病院を頼りにしてばかりいることは許されません。市民病院が、より本来の使命を果たし、高度医療、救命救急を安心して、より充実して行っていく為には、私達開業医はどの様な役割を果たしていったら良いのか、真剣に考えなければなりません。

一方、私達も又、生活と人生をかけて、開業医生活を送っております。私達には、市民病院のような大がかりな設備はありませんし、人材もいません。よって大きな検査や手術はできません。そんな中で医院を運営していく為には一人でも多くの患者さんに来てもらわなければなりません。何人の患者さんに来てもらったかが、医院の収入に直接結びつきます。患者さんが市民病院ばかりに集中するようでは、開業医は成り立ちません。その意味で、市民病院は高次医療本来の使命を果たしていただき、開業医で行えることは、是非開業医を信頼して回していただきたい。

この相互信頼と協力体制ができてこそ初めて病診連携は成り立つものと考えます。この深い関係を確立する目的で、今回小牧地域連携協議会が発足いたしました。お互いに意見を出し合い、信頼関係を一層深め、理想的な病診連携を確立して参りたいと思っています。

病診連携室より 佐久間 修（医事係長）



病診連携室は平成12年に開設しましたが、10年の月日を経て、ようやく「小牧連携便り」を発刊することができました。

連携室の今までの活動は、この便りの創刊からも十分とは言えず、大変、恥ずかしい思いでいっぱいです。しかしながら、船橋医師会長をはじめ、関係の先生方のご協力を得て、創刊号を無事発刊できたことを感謝させていただくとともに、これからの重大な責任を痛感しています。

病診連携室では、開業医の先生方からの予約調整、紹介病院の検索、診療情報提供書のカルテ取り込み、紹介された患者に対する回答書の確認など連携に必要な業務を行っていますが、今後、皆様方のご意見を取り入れながら、さらなる病診連携の向上を図っていきたくと考えています。

地域医療の必要性が叫ばれる中、小牧市民病院が中核病院として何を行うべきかを真剣に考えていかなければなりません。地域の人々に良い医療を提供したいという共通の気持ちを持って、「小牧地域連携協議会」では開業医の皆様方と市民病院の先生方が熱い意見を交わされることと思います。その中で、病診連携室が調整役としての役割をしっかりと果たしたいと思います。

機動力を備え、弾力的な運用が出来る病診連携室を目指し、夢を申せば日本中の医療機関が参考にしたいと思うような連携システムを構築したいと考えています。

そのためには、先生方のご協力と私共への助言・支援が必要となりますので、重ねてお願い申し上げます。

スタッフ紹介



望月 盈宏（副院長）

病診連携室室長。人情味豊かでユニークな性格が持ち味。趣味は山登り、囲碁、釣り、自転車と多彩。目標は日本百名山制覇。



内藤 和行（医局長）

病診連携強化のため医局より加わりましたが、多くの先生方とお会いして改めて連携の重要性を認識しました。趣味は地域連携です。



西島 洋子（看護師）

昨年より調整役の一端を担えればと地域診療所訪問、回答書の確認・督促にとパソコンとにらめっこしています。趣味は太極拳、彫塑画、県人会（鳥取県）活動。



櫻井 克匡（医事課長補佐）

何事にも前向きに取り組むが性格は大雑把。趣味を鉄道模型にしたいが、家庭の事情で実現できていない。



長谷川 みどり

趣味はDVD鑑賞。『逆転勝利』的なストーリーに感動します。私自身仕事の上ではまだまだ負け組ですが『逆転勝利』に向かって誠心誠意頑張ります。



石黒 優子

病診連携室に配属されて4年。仕事の流れがやっとわかってきて、これからも一層、皆と一緒にがんばっていきたいと思っています。趣味は旅行、ドライブ。



上中 裕美子

今年の1月から病診連携室に仲間入りしました。趣味は旅行、映画鑑賞。特技はピアノ。B型らしく仕事もマイペースにがんばります。



岡本 直大

今春入社。失敗して落ち込むこともあるけれど、一生懸命さは忘れない。趣味は音楽鑑賞、雅楽と最近はおオーケストラに凝っている。

3月5日

小牧地域連携協議会発足

病診連携を強化し、地域医療の充実を図ることを目的とした小牧地域連携協議会が発足しました。

委員は小牧市医師会から船橋先生（北里クリニック）、友松先生（友松内科耳鼻咽喉科）、吉田先生（吉田医院）、菱田先生（菱田医院）、後藤先生（ごとう小児科）、市民病院からは、末永（院長）、望月（副院長）、松本（副院長）、

小川（副院長）、内藤（医局長）が選出されました。

今後、協議会は2カ月に1回開催することになります。開業医の皆様におかれまして、病診連携に関するご要望がありましたら、病診連携室までご連絡ください。協議会での検討事項とさせていただきます。

尾北がん地域連携パスネットワーク会議設立

愛知県統一がん地域連携パスを当地域で現実的に運用していくためには、市民病院と地域医療機関との間で調整が必要となります。

この調整役を連携パスネットワーク会議が

担い、定期的な開催を通して、パス改善、診療コーディネートの円滑化、情報交換などが行われます。

4月14日

第2回小牧地域連携協議会開催

2回目となった連携協議会では、病診連携強化に必要な具体的な案について協議されました。

◎決定事項

①病診連携室専用の予約枠を設け、2週間以内に診察予約を確保する。

②定期的な病診連携情報誌を年3回発行する。

③病診連携室を経由しての骨塩定量検査の予約が開始する。

④市民病院での長期投与を原則1ヶ月以内にし、紹介がスムーズに出来るようにする。

⑤病診連携質問票を作成し、質問票を用いて、開業医の皆様からの疑問にお答えする。

⑥尾張臨床懇話会の見直しを行い、より多くの先生方に参加していただくようアンケートを実施する。

5月27日

第145回尾張臨床懇話会

尾張臨床懇話会は平成22年度から毎月第4木曜日（午後2時～3時30分）に行われることになりました。

今年度最初の懇話会では、救急科部長の徳山による「救急の現場より」の講演が行われました。

講演では、当院の救急外来で実際に受診した患者の症例を例題に出し、参加者全員で治療方針、診断を考えていくという形式で行われ、参加された先生方からも積極的な意見が

出されてきました。

尾張臨床懇話会については、現在アンケートを行っており、より多くの方に参加していただけるような魅力ある会にしていきたいと思っております。

懇話会に関するご意見・ご要望があれば病診連携室までご連絡ください。

6月12～13日

緩和ケア研修会

がん対策基本法とそれに基づくがん対策推進基本計画の中で、がん診療に携わる医師に対する緩和ケアの教育は大きな柱となっています。

厚生労働省から各都道府県に「すべてのがん診療に携わる医師」に対する緩和ケアに関する研修会を開催するよう通知が行われており、がん診療連携拠点病院である市民病院にとって最重要の業務に位置づけられます。

研修会では、講義とワークショップ形式による2日間のプログラムが行われ、20名の医師が修了しました。

参加者からは、「研修会で得たものを、実際に実践できるかを考えるとハードルが高いかと思いますが、地域医療に関わるものとして少しでも貢献したい」などの意見が聞かれました。



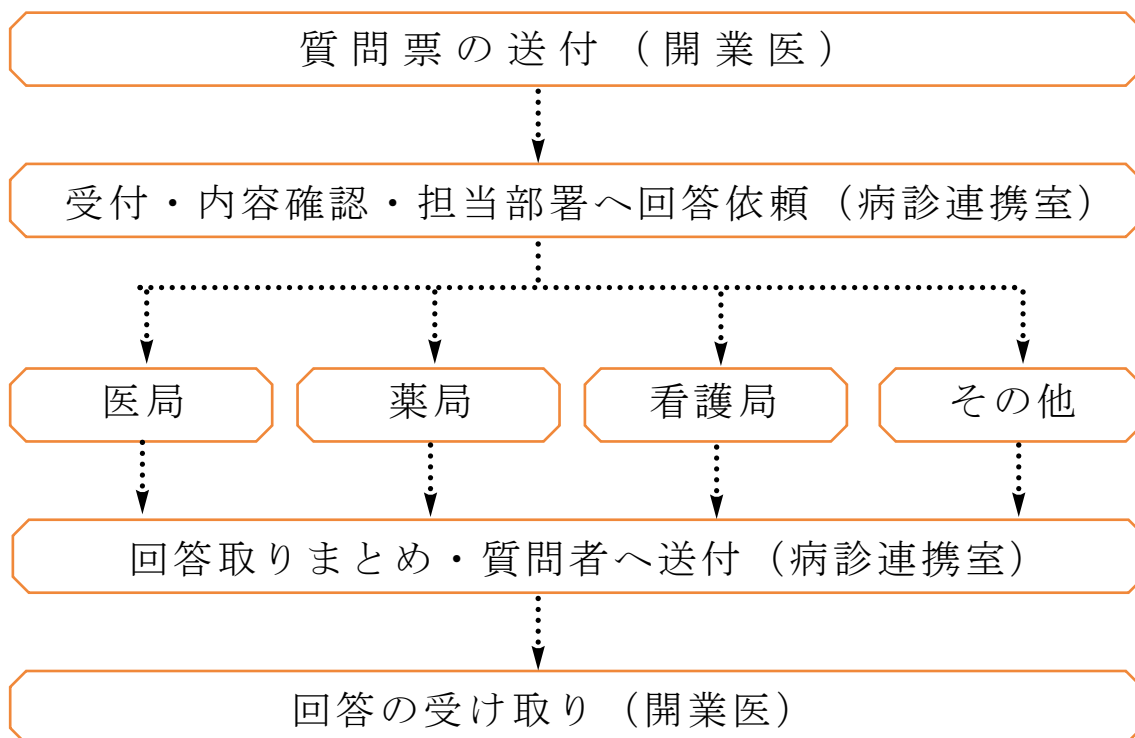
病診連携質問票をご利用ください

日ごろの診療にあたって、「こんな情報があったら…」、「専門医ならどう判断するの？」などと思ったことはありませんか。

このたび、そのような質問・疑問をお受けするための”病診連携質問票”を作成しました。質問を受けてから、3日以内（営業日）に回答をさせていただきます。

※質問内容によっては、3日を越える場合があります。その場合には病診連携室からご連絡させていただきます。

病診連携質問票の流れ



紹介状が新しくなりました

従来、検査などで患者様を紹介していただく場合、紹介状の他に検査予約申込書を別に記載していただく必要がありました。開業医の皆様から、負担軽減のため紹介状様式の見直しが求められていましたが、このたび変更をさせていただきました。

紹介状の様式は病院ホームページの病診連携室コーナーにも掲載してありますが、複写式の紹介状も用意しておりますので、必要な方は病診連携室までご連絡ください。

紹介状(診察・検査予約)

紹介日:平成 年 月 日

小牧市民病院長 様

医療機関名

紹介医師名

印

住所

TEL

FAX

下記患者様について、診察予約等を申し込みます。

ふりがな								明・大・昭・平		
患者様氏名	様	年	月	日生	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女					
住所	〒 -									
小牧市民病院のID番号				TEL	-	-				
予約希望日	第1希望	平成	年	月	日()	第2希望	平成	年	月	日()

紹介先医師	科	医師	<input type="checkbox"/> 医師指定なし
紹介目的			
臨床診断			
現病歴 検査結果 現在の処方 等			

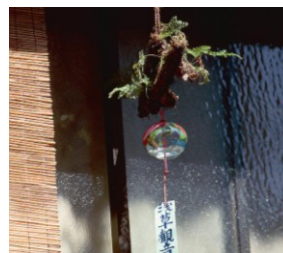
予約種別 (□にレを付してください)			
<input type="checkbox"/> 診察	<input type="checkbox"/> 一般内 <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> 循内 <input type="checkbox"/> 消内 <input type="checkbox"/> 呼内 <input type="checkbox"/> 腎内 <input type="checkbox"/> 糖内 <input type="checkbox"/> 内分泌 <input type="checkbox"/> 神経内 <input type="checkbox"/> 小児 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 脳外 <input type="checkbox"/> 整外 <input type="checkbox"/> 産婦人 <input type="checkbox"/> 耳鼻 <input type="checkbox"/> 眼科 <input type="checkbox"/> 皮膚 <input type="checkbox"/> 泌尿 <input type="checkbox"/> 放射線 <input type="checkbox"/> 形成 <input type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 麻酔 <input type="checkbox"/> 心外 <input type="checkbox"/> 呼外 <input type="checkbox"/> 歯口腔 <input type="checkbox"/> 緩和		
<input type="checkbox"/> CT	部位	<input type="checkbox"/> 頭部・顔面・頸部 <input type="checkbox"/> 胸部 <input type="checkbox"/> 腹部 <input type="checkbox"/> 四肢 <input type="checkbox"/> 脊椎	
	手法	<input type="checkbox"/> 単純 <input type="checkbox"/> 造影のみ <input type="checkbox"/> 単純+造影	お渡し方法 <input type="checkbox"/> CD <input type="checkbox"/> フィルム
<input type="checkbox"/> MRI	部位	<input type="checkbox"/> 頭部・顔面・頸部 <input type="checkbox"/> 頸髄 <input type="checkbox"/> 胸髄 <input type="checkbox"/> 腰髄 <input type="checkbox"/> 四肢 <input type="checkbox"/> 胸腹部 <input type="checkbox"/> 血管	腎機能 <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 異常
	手法	<input type="checkbox"/> 単純 <input type="checkbox"/> 造影のみ <input type="checkbox"/> 単純+造影	お渡し方法 <input type="checkbox"/> CD <input type="checkbox"/> フィルム
<input type="checkbox"/> 腹部超音波	* 同時に消化器内科の診察予約もお取りします。		
<input type="checkbox"/> 胃カメラ	事前検査結果	HCV <input type="checkbox"/> + <input type="checkbox"/> -	HBsAg <input type="checkbox"/> + <input type="checkbox"/> - 梅毒 <input type="checkbox"/> + <input type="checkbox"/> -
<input type="checkbox"/> 胃透視	CD要望	<input type="checkbox"/> 要望する <input type="checkbox"/> 要望しない ; * 同時に消化器内科の診察予約もお取りします。	
<input type="checkbox"/> 心エコー	* 同時に循環器内科の診察予約もお取りします。		
<input type="checkbox"/> 骨塩定量	部位	<input type="checkbox"/> 腰椎 <input type="checkbox"/> 大腿骨	

送付先:病診連携室 FAX 0568-74-4516 TEL 0568-76-1434(平日8:30~17:00)

★★

KOMAKI DI LETTERS

— Drug Information News —



★★

編集：小牧市民病院 薬局 医薬品情報室

1. DI 実例報告から

Question

フィブラストスプレーを使用しようとしたら、「発癌性があるから自分の手にはかけないように注意してください。」といわれましたが、発癌性があるのですか？

Answer

発癌性はありません。ただし、腫瘍細胞の増殖作用があります。

フィブラストスプレーの成分であるトラフェルミンは、血管新生作用、肉芽形成促進作用を有することからヒト塩基性繊維芽細胞増殖因子と呼ばれており、臨床では創傷の治癒を促進を期待して褥瘡、皮膚潰瘍（熱傷潰瘍、下腿潰瘍）に用いられている。

トラフェルミンはマウスを用いた皮膚発がん試験において発癌性が認められなかったものの、ヒト腫瘍細胞を用いた増殖に関する影響を調査した試験においてはわずかな増殖促進作用が認められている。

以上のことにより、禁忌として「投与部位に悪性腫瘍のある患者又はその既往歴のある患者」があげられており、基本的注意には「使用開始に際しては問診等により悪性腫瘍又はその既往について考慮すること。」「難治性潰瘍については事前に生検等により投与部位に悪性腫瘍のないことを確認すること。」とある。

使用者自身の手への噴霧を避けることは発癌性があるからではなく、万が一腫瘍細胞があった場合のリスクを避けるためである。

(フィブラストスプレー IF)

Question

精製ツベルクリンを 0.2mL 注射してしまいました。反応は通常の 2 倍出ると考えて、判定すればよいのでしょうか？

Answer

不可。判定に利用できない。

精製ツベルクリンは、その 0.5 μ g/mL 溶液の 0.1mL を皮下に注射することになっている。皮下への 0.1mL 以上の投与は不可能である。0.2mL 量を注射できたということは、皮下より深い部分へ投与されていると考えられる。判定には利用できない。

(日本ビーシージー製造 学術)

2. 当院新規採用医薬品のご案内 (2010年2月21日～5月20日)

薬品名 アンペック注 200mg

メーカー 大日本住友製薬

薬効分類 モルヒネ塩酸塩注射剤

組成 1アンプル 5mL 中、モルヒネ塩酸塩水和物 200mg(4%)

効能・効果 激しい疼痛時における鎮痛・鎮静

激しい咳嗽発作における鎮咳
激しい下痢症状の改善および手術後等の腸管蠕動運動の抑制
麻酔前投薬, 麻酔の補助
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛

用法・用量 通常, 成人にはモルヒネ塩酸塩水和物として1回 5~10mg を皮下に注射する。また, 麻酔の補助として, 静脈内に注射することもある。なお, 年齢, 症状により適宜増減する。

中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛において持続点滴静注または持続皮下注する場合には, 通常, 成人にはモルヒネ塩酸塩水和物として1回 50~200mg を投与する。なお, 年齢, 症状により適宜増減する。

使用上の注意

【禁忌】

1. 重篤な呼吸抑制のある患者〔呼吸抑制を増強する。〕
2. 気管支喘息発作中の患者〔気道分泌を妨げる。〕
3. 重篤な肝障害のある患者〔昏睡に陥ることがある。〕
4. 慢性肺疾患に続発する心不全の患者〔呼吸抑制や循環不全を増強する。〕
5. 痙れん状態(てんかん重積症, 破傷風, ストリキニーネ中毒)にある患者〔脊髄の刺激効果があらわれる。〕
6. 急性アルコール中毒の患者〔呼吸抑制を増強する。〕
7. 本剤の成分およびアヘンアルカロイドに対し過敏症の患者
8. 出血性大腸炎の患者〔腸管出血性大腸菌(O157 等)や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢患者では, 症状の悪化, 治療期間の延長をきたすおそれがある。〕

薬品名 ケタラール筋注用 500mg

メーカー 第一三共

薬効分類 注射用全身麻酔剤

組成 1バイアル中 (10mL)、ケタミン塩酸塩(日局)576.7mg/10mL(ケタミンとして 500mg/10mL)

効能・効果 手術、検査および処置時の全身麻酔および吸入麻酔の導入

用法・用量 通常、ケタミンとして、初回体重 1kg 当り 5~10mg を筋肉内注射し、必要に応じて初回量と同量又は半量を追加投与する。

使用上の注意

【禁忌】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 脳血管障害、高血圧(収縮期圧 160mmHg 以上、拡張期圧 100mmHg 以上)、脳圧亢進症及び重症の心代償不全の患者 [一過性の血圧上昇作用、脳圧亢進作用がある。]
3. 痙攣発作の既往歴のある患者 [痙攣を誘発することがある。]
4. 外来患者 [麻酔前後の管理が行き届かない。]

薬品名 サーバリックス

メーカー グラクソ・スミスクライン

薬効分類 ウイルスワクチン類

組成 本剤は、0.5mL 中に下記の成分・分量を含有する。

ヒトパピローマウイルス 16 型 L1 たん白質ウイルス様粒子 20 μ g
ヒトパピローマウイルス 18 型 L1 たん白質ウイルス様粒子 20 μ g

包装 シリンジ 0.5mL : 1 本 [25 ゲージの注射針が同梱されている。]

効能・効果 ヒトパピローマウイルス (HPV) 16 型及び 18 型感染に起因する子宮頸癌 (扁平上皮細胞癌、腺癌) 及びその前駆病変 (子宮頸部上皮内腫瘍 (CIN) 2 及び 3) の予防

用法・用量 10 歳以上の女性に、通常、1 回 0.5mL を 0、1、6 ヶ月後に 3 回、上腕の三角筋部に筋肉内接種する。
接種前には、必ず接種液を振り混ぜて均一にしてください。

使用上の注意

【接種不相当者】

- (1) 明らかな発熱を呈している者
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- (3) 本剤の成分に対して過敏症を呈したことがある者
- (4) 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

薬品名 プレベナー水性懸濁皮下注

メーカー ファイザー

薬効分類 細菌ワクチン類

組成 肺炎球菌莢膜ポリサッカライド-CRM₁₉₇ 結合体

容量 0.5mL/シリンジ

効能・効果 肺炎球菌 (血清型 4、6B、9V、14、18C、19F 及び 23F) による侵襲性感染症の予防

用法・用量

- ・初回免疫：
通常、1回0.5mLずつを3回、いずれも27日間以上の間隔で皮下に注射する。
- ・追加免疫：
通常、1回0.5mLを1回、皮下に注射する。ただし、3回目接種から60日間以上の間隔をおく。

使用上の注意**【接種不適合者】**

1. 本剤の成分又はジフテリアトキソイドによってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな者
2. 明らかな発熱を呈している者
3. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
4. 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

薬品名 セロイク注射用40**メーカー** 武田薬品工業**薬効分類** インターロイキン-2製剤**組成** 1バイアル中の有効成分：セルモロイキン（遺伝子組換え）40万国内標準単位
溶解液（添付）：日局「注射用水」1mL**効能・効果** 血管肉腫**用法・用量**

- 点滴静注の場合
通常、成人には1日1回40万国内標準単位を点滴静注する。なお、症状により適宜増減するが、最大投与量は1日160万国内標準単位（分2）とする。
投与に際しては、生理食塩液又はブドウ糖注射液等に溶解して用いる。
- 局所（腫瘍周縁部）投与の場合
通常、成人には1日1回全病巣あたり40万国内標準単位を添付の日局「注射用水」1mLに溶解して腫瘍周縁部に投与する。なお、症状により適宜増減する。

使用上の注意**【禁忌】**

1. 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者
2. ワクチン等生物学的製剤に対して過敏症の既往歴のある患者

薬品名 ベガモックス点眼液0.5%**メーカー** 日本アルコン**薬効分類** 広範囲抗菌点眼剤**組成** 1mL中含量 5.45mg（モキシフロキサシンとして5mg）

効能・効果

〈適応菌種〉

本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、ミクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、シュードモナス属、バークホルデリア・セパシア、アシネトバクター属、アクネ菌、ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア

〈適応症〉

眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、眼科周術期の無菌化療法

用法・用量

【眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）】

通常、1回1滴、1日3回点眼する。なお、症状により適宜増減する。

【眼科周術期の無菌化療法】

通常、手術前は1回1滴、1日5回、手術後は1回1滴、1日3回点眼する。

使用上の注意

【禁忌】本剤の成分又はキノロン系抗菌剤に対し過敏症の既往歴のある患者

薬品名 リコモジュリン点滴静注用 12800

メーカー 旭化成ファーマ

薬効分類 血液凝固阻止剤

組成 1バイアル中、トロンボモデュリン アルファ（遺伝子組換え）として12,800U^{a)}

本剤の有効成分であるトロンボモデュリン アルファ（遺伝子組換え）は、製造工程でチャイニーズハムスター卵巣細胞、ウシ血清（ニュージーランド産又はオーストラリア産）、抗トロンボモデュリン アルファ マウスモノクローナル抗体を使用している。

a) 国立医薬品食品衛生研究所と旭化成ファーマ(株)にて統一化された活性単位を使用

トロンボモジュリンは血管内皮細胞上に存在する糖タンパク質であり、生体内の血液凝固調節を担う生理的な抗凝固因子である。

効能・効果 汎発性血管内血液凝固症（DIC）

用法・用量

通常、成人には、トロンボモデュリン アルファとして1日1回380U/kgを約30分かけて点滴静注する。
なお、症状に応じ適宜減量する。

【注射液の調製法】

1バイアル(12,800U)当り2mLの日局生理食塩液で溶解し、この溶液から患者の体重にあわせて必要量を取り日局生理食塩液100mLに希釈し、点滴静注する。

使用上の注意

【禁忌】

1. 頭蓋内出血、肺出血、消化管出血（継続的な吐血・下血、消化管潰瘍による出血）のある患者
2. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
3. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

薬品名 アロキシ静注 0.75mg

メーカー 大鵬薬品工業

薬効分類 5-HT₃受容体拮抗型制吐剤

組成 1 瓶 5mL 中含量 パロノセトロン塩酸塩 0.84mg (パロノセトロンとして 0.75mg)

効能・効果 抗悪性腫瘍剤 (シスプラチン等) 投与に伴う消化器症状 (悪心、嘔吐) (遅発期を含む)

用法・用量

通常、成人にはパロノセトロンとして 0.75mg を 1 日 1 回静脈内投与する。

使用上の注意

【禁忌】 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

薬品名 アフィニトール錠 5mg

メーカー ノバルティス ファーマ

薬効分類 抗悪性腫瘍剤 (分子標的治療剤・mTOR 阻害剤)

組成 1 錠中、エベロリムス 5mg

効能・効果 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌

用法・用量 通常、成人にはエベロリムスとして 1 日 1 回 10mg を空腹時に経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。

使用上の注意

【警告】

1. 本剤の投与は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本療法が適切と判断される症例についてのみ投与すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性 (特に、間質性肺疾患の初期症状、服用中の注意事項、死亡に至った例があること等に関する情報) を十分に説明し、同意を得てから投与を開始すること。
2. 臨床試験において、本剤の投与により、間質性肺疾患が認められており、死亡に至った例が報告されている。投与に際しては咳嗽、呼吸困難、発熱等の臨床症状に注意するとともに、投与前及び投与中は定期的に胸部 CT 検査を実施すること。また、異常が認められた場合には適切な処置を行うとともに、投与継続の可否について慎重に検討すること。
3. 肝炎ウイルスキャリアの患者で、本剤の治療期間中に肝炎ウイルスの再活性化により肝不全に至り、死亡した例が報告されている。本剤投与期間中又は治療終了後は、劇症肝炎又は肝炎の増悪、肝不全が発現するおそれがあるので、定期的に肝機能検査を行うなど、肝炎ウイルスの再活性化の徴候や症状の発現に注意すること。

【禁忌】

- 1 本剤の成分又はシロリムス誘導体に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

薬品名 テモダール点滴静注用 100mg

メーカー シェリング・プラウ

薬効分類 抗悪性腫瘍剤

組成 1 バイアル中の含有量：テモゾロミド 104.5mg

日本薬局方「注射用水」41mL で溶解した溶液 40mL に含まれる量 100mg

効能・効果 悪性神経膠腫

用法・用量

下記のとおり本剤を 90 分間かけて静脈内投与する。

1. 初発の場合

放射線照射との併用にて、通常、成人ではテモゾロミドとして $75\text{mg}/\text{m}^2$ （体表面積）を 1 日 1 回 42 日間投与し、4 週間休薬する。その後、本剤単独にて、テモゾロミドとして $150\text{mg}/\text{m}^2$ （体表面積）を 1 日 1 回 5 日間投与し、23 日間休薬する。この 28 日を 1 クールとし、次クールでは 1 回 $200\text{mg}/\text{m}^2$ に増量することができる。

2. 再発の場合

通常、成人ではテモゾロミドとして $150\text{mg}/\text{m}^2$ （体表面積）を 1 日 1 回 5 日間投与し、23 日間休薬する。この 28 日を 1 クールとし、次クールで 1 回 $200\text{mg}/\text{m}^2$ に増量することができる。

使用上の注意

【警告】

1. 本剤による治療は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本療法が適切と判断される症例についてのみ実施すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。
2. 本剤と放射線照射を併用する場合に、重篤な副作用や放射線照射による合併症が発現する可能性があるため、放射線照射とがん化学療法の併用治療に十分な知識・経験を持つ医師のもとで実施すること。
3. 本剤の投与後にニューモシスチス肺炎が発生することがあるため、適切な措置の実施を考慮すること。

【禁忌】

1. 本剤又はダカルバジンに対し過敏症の既往歴のある患者
2. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人



3. 当院採用医薬品添付文書改訂情報（2010年2月21日～5月20日）

（実線下線部追加、点線下線部変更、削除線部削除）

1) 警告

・ウブレチド錠 5mg

本剤の投与により意識障害を伴う重篤なコリン作動性クリーゼを発現し、致命的な転帰をたどる例が報告されているので、投与に際しては下記の点に注意し、医師の厳重な監督下、患者の状態を十分観察すること

(1) 本剤投与中にコリン作動性クリーゼの徴候（初期症状：悪心・嘔吐、腹痛、下痢、唾液分泌過多、気道分泌過多、発汗、徐脈、縮瞳、呼吸困難等、臨床検査：血清コリンエステラーゼ低下）が認められた場合には、直ちに投与を中止すること。

(2) コリン作動性クリーゼがあらわれた場合は、アトロピン硫酸塩水和物 0.5～1mg（患者の症状に合わせて適宜増量）を静脈内投与する。また、呼吸不全に至ることもあるので、その場合は気道を確保し、人工換気を考慮すること。

(3) 本剤の投与に際しては、副作用の発現の可能性について患者又はそれに代わる適切な者に十分理解させ、下記のコリン作動性クリーゼの初期症状が認められた場合には服用を中止するとともに直ちに医師に連絡し、指示を仰ぐよう注意を与えること。

悪心・嘔吐、腹痛、下痢、唾液分泌過多、気道分泌過多、発汗、徐脈、縮瞳、呼吸困難

・ドルミカム注射液 10mg

1. (略)

2. 低出生体重児及び新生児に対して急速静脈内投与をしてはならない。[急速静脈内投与後、重度の低血圧及び痙攣発作が報告されている。]

・レミケード点滴静注用 100

1. ～7. (略)

8. 強直性脊椎炎では、本剤の治療を行う前に、既存治療薬（非ステロイド性抗炎症剤等）の使用を十分勘案すること。また、本剤についての十分な知識と強直性脊椎炎の診断及び治療の経験をもつ医師が使用すること。

9. (略)

2) 禁忌

・ウブレチド錠 5mg

(2)HIV 感染症治療薬（インジナビル、サキナビル、ネルフィナビル、ホスアンプレナビル、アタザナビル、デラビルジン）、ボリコナゾール、プラジカンテル又はタダラフィル（アドシルカ）を投与中の患者

・リマクタンカプセル 150mg

1. (略)

2. *HIV 感染症治療薬（インジナビル、サキナビル、ネルフィナビル、ホスアンプレナビル、アタザナビル、デラビルジン）、ボリコナゾール、プラジカンテル又はタダラフィル（アドシルカ）を投与中の患者

3. (略)

3) 効能・効果

・ レミケード点滴静注用 100

既存治療で効果不十分な下記疾患

関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）

ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎

尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症

強直性脊椎炎

次のいずれかの状態を示すクローン病の治療及び維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）

中等度から重度の活動期にある患者

外瘻を有する患者

・ ラキソベロン内用液 0.75%

1.～3.（略）

4. 手術前における腸管内容物の排除

5.（略）

・ タンボコール錠 50mg

下記の状態で他の抗不整脈薬が使用できないか、又は無効の場合

成人

頻脈性不整脈（発作性心房細動・粗動、心室性）

小児

頻脈性不整脈（発作性心房細動・粗動、発作性上室性、心室性）

4) 用法・用量

・ ウブレチド錠 5mg

1. 手術後及び神経因性膀胱などの低緊張性膀胱による排尿困難

ジスチグミン臭化物として、成人 1 日 5mg を経口投与する。

2.（略）

・ エンブレル皮下注 25mg シリンジ 0.5mL

【エンブレル皮下注 50mg シリンジ 1.0mL の製造承認取得に伴う用法・用量の追加】

本剤を、通常、成人にはエタネルセプト（遺伝子組換え）として 10～25mg を 1 日 1 回、週に 2 回、又は 25～50mg を 1 日 1 回、週に 1 回、皮下注射する。

本剤は、1 回の投与量が 25mg 又は 50mg の患者にのみ投与すること。なお、1 回に本剤の全量を使用すること。

本剤を週に 2 回投与する場合は、投与間隔を 3～4 日間隔とすること。

・ ドルミカム注射液 10mg

麻酔前投薬

通常、成人にはミダゾラム 0.08～0.10mg/kg を手術前 30 分～1 時間に筋肉内に注射する。

通常、修正在胎 45 週以上（在胎週数＋出生後週数）の小児にはミダゾラム 0.08～0.15mg/kg を手術前 30 分～1 時間に筋肉内に注射する。

なお、いずれの場合も、患者の年齢、感受性、全身状態、手術術式、麻酔方法等に応じて適宜増減する。

・レミケード点滴静注用 100

(略)

<強直性脊椎炎>

通常、体重 1kg 当たり 5mg を 1 回の投与量とし点滴静注する。初回投与後、2 週、6 週に投与し、以後 6～8 週間の間隔で投与を行うこと。

なお、本剤投与時には、1.2 ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。

(略)

・ラキソベロン内用液 0.75%

1.～3. (略)

4. 通常、成人に対して 14 滴 (0.93mL) を経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

5. (略)

・タンボコール錠 50mg

成人

(略)

小児

頻脈性不整脈 (発作性心房細動・粗動、発作性上室性、心室性)

通常、6 ヶ月以上の乳児、幼児及び小児にはフレカイニド酢酸塩として 1 日 50～100mg/m² (体表面積) を、1 日 2～3 回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、1 日最高用量は 200mg/m² とする。

通常、6 ヶ月未満の乳児にはフレカイニド酢酸塩として 1 日 50mg/m² (体表面積) を、1 日 2～3 回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、1 日最高用量は 200mg/m² とする。

5) 販売名変更 (~~削除線部~~ : 旧名称、下線部 : 新名称)

・~~フルベアンコーワテープ~~ ⇒ フルベアンコーワテープ 8 μg/cm²

・~~ボルヒール~~ ⇒ ボルヒール組織接着用

・~~コルヒチン錠 0.5mg 「シオノギ」~~ ⇒ コルヒチン錠 0.5mg 「タカタ」

・~~マイクロシールド PVP~~ ⇒ ポピドンヨードスクラブ液 7.5% (JJKK)

・~~エピネフリン注 0.1% シリンジ 「テルモ」~~

⇒ アドレナリン注 0.1% シリンジ 「テルモ」

・~~ラキソベロン内用液~~ ⇒ ラキソベロン内用液 0.75%

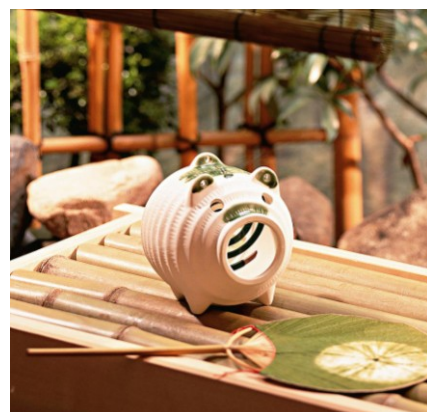
・~~アセチルシステイン内用液 17.6% 「センジュ」~~

⇒ アセチルシステイン内用液 17.6% 「ショーワ」

6) 社名変更 (削除線部：旧名称、下線部：新名称)

- ・ ~~インテンディイス株式会社~~ ⇒ バイエル薬品株式会社 (統合)
- ・ ~~味の素ファルマ~~ ⇒ 味の素製薬
- ・ ~~日本ユニバーサル薬品株式会社~~ ⇒ ザイダスファーマ株式会社
- ・ ~~ロイス株式会社~~ ⇒ ファイザー株式会社 (統合)

その他の項目 (慎重投与、重要な基本的注意、相互作用、副作用、高齢者への投与、妊婦・産婦・授乳婦等への投与、小児等への投与、適用上の注意、など) については掲載しておりませんので、ご了承くださいますようお願い申し上げます。



4. 安全性情報・適正使用情報 (2010年2月21日～5月20日)

サイトテック錠 適正使用情報

- 「妊婦または妊娠している可能性のある婦人」への投与は、禁忌です。
- 「妊娠する可能性のある婦人」への投与も、原則禁忌です。

本剤を分娩誘発目的で経口投与または膈内投与すると、新生児に対する重篤な副作用が現れるという報告があります。

分娩後の子宮収縮、弛緩出血の止血等の目的での使用も適応外使用です。妊娠中に本剤が投与されると、流産を起こすおそれがあります。



この度、「KOMAKI DI LETTERS」の編集を担当させて頂くことになりました小牧市民病院薬局 医薬品情報室の戸田です。

当医薬品情報室では、1994年より院内向け情報誌として「DRUG INFORMATION」(院内ホームページの開設に伴い2000年にて休刊)、薬局内情報誌として「PHARMACY LETTERS」を編集発行してまいりました。

「KOMAKI DI LETTERS」は、病診連携の一環である病院外への情報提供を視野に入れた医薬品情報誌として企画されました。お届けする内容は、①DI実例報告から、②当院新規採用医薬品のご案内、③当院採用医薬品添付文書改訂情報、④安全性情報・適正使用情報を主なものとしております。特に、DI実例報告からにつきましては、当院に寄せられた薬剤に関する質問を中心とした掲載を考えておりますので、病診連携質問票を積極的にご利用ください。

また、病診連携共有の場として先生方からの寄稿も期待しております。

最後に、編集にあたっておりますDI担当も未熟でありますので、ご意見、ご提案などご指導のほどよろしくお願いたします。

